

## 岐阜県立恵那農業高等学校

学校長 柴 成吉

学校住所 岐阜県恵那市大井町2625番地の17 電話 0573-26-1251

- 1 会議名 恵那農業高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和7年11月23日(日)
- 3 開催場所 恵那農業高等学校 農高祭の参観・集合形式の会議(会議室)

- 4 委員 ○大宮 康一 岐阜大学地域協学センター准教授  
○宮田 和也 岐阜県立国際園芸アカデミー副学長  
○岡庭 隆 保護司  
○小椋日南恵 えな「たべる」プロジェクトアドバイザー  
○伊藤 政之 恵那市立恵那西中学校長  
○吉村 彰夫 恵那市立大井第二小学校長  
○丸山 鮎美 卒業生保護者  
○伊藤 智穂 在校生保護者

学 校 側	柴 成吉 校長	水野 歩 教頭
	坪内 芳憲 事務長	堅野 剛史 教務主任
	野々目佳世 進路指導部長	河島 隆浩 生徒指導部長
	今井 章文 特別活動部長	野村 祐作 農場長

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (1) 学校の姿、生徒の姿に触れて ～生徒の主体的な学習の姿～ について

- ・農高祭前日、当日ともに「こんにちは」と気持ちよく声をかけてくれる生徒が多くいた。当日生徒も単純作業としてではなく、考えながら業務として行っており、しっかりしている。何よりも生き生きと楽しそうに過ごしている姿が印象的だった。
- ・大勢の人出で賑わっており活況だった。地域の中に農高祭がしっかりと根付いている。地元の小・中学生の姿もみられた。
- ・「来年も来たい」と来場者に思わせる立ち居振る舞いを生徒もより意識・自覚できるとさらに素晴らしい。
- ・花き・農産物・加工品の販売や日頃の学習の展示、試食や体験など農業高校ならではの特色がしっかり生かされている。
- ・生徒の笑顔が印象的で質問にもしっかりと答えることができていた。
- ・本校生主催の彩マーケットの情報発信をLINE、インスタグラムで行われており、SNSを活用した情報発信の学びにつながるものでとても良い。
- ・生徒や卒業生と思われる人たちの姿からとても穏やかな空気を感じた。
- ・教員と生徒たちとの距離感が近いのがよい。

#### (2) 学校評価アンケート(生徒・保護者) 結果報告

### (3) スクールミッションについて

- ・成人になる年齢の高校生が社会に向かう基盤として「あいさつ」「自らの行動への責任」「地域への愛着」がありとても良いと思う
- ・日本の将来を考えると、農業（食料）の問題はとても重要なだけに「農業のスペシャリスト」を目指す生徒の育成に共感する
- ・昨年度末に策定されたスクールミッションの内容と日頃の学習活動の関連が明確であり、学校として大切にしたい事柄が位置づいている
- ・公立高校が自らのアイデンティティを確立していくには、今後地域の中においてブランディングを示していく必要があるため、地域との密接なつながりを引き続き大切にしたい。
- ・社会で必要となる基礎的態度や責任感を育てる観点や地域貢献を重視し、社会的な役割も意識できる点が良い。一方で、農業もグローバル化の時代。国際化や多様性などもう少し幅広い視点での表現があってもよい。
- ・農業高校として専門性を重視するとともに基礎・基本の徹底を掲げ、学力の土台作りも重視しており、バランスが取れた方針である。
- ・主体的な学びや農業と生命への関心が位置付けられ、農業高校としての方針に合致している
- ・新聞記事などにおいて生徒の活躍ぶりが頻繁に見られ、大変すばらしい。これらの活動が「やられる活動」ではなく、生徒自身が「やりたい活動」になっていることが「主体性」を考えるうえで重要である。
- ・日常の学習においても生徒が自己選択自己決定できる機会を適切につけていきたい。
- ・朝の登校時にとってもさわやかな挨拶をする農高生によく会い、その姿を小学校の子どもたちにも話した。あいさつ活動が「本物の力」になる例である。
- ・大学には本校から毎年多くの生徒が入学しているが、明確な目標を持ち、その目標に向かって意欲的に学習するとともに、礼儀正しい生徒ばかりである。学習目標通りの人材育成がされている。

## 6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会では、生徒・保護者学校評価アンケート結果、日頃の活動報告、そして一般公開した「農高祭」での生徒の姿の視察をもとに意見を得た。生徒の活動を見てもらうことで、本校の目標とするところへ向かっているか確認することができた。生徒の主体性についての意見を得た。地域の良き人材となれるよう主体的な学びをより高いレベルにしていきたい。